

ほがらか

ほなみだより

第 92 号

開設 20 周年記念号

令和 2 年 6 月 13 日

[発行元] 酒田市本楯字前田 127-2

[発行者] 医療法人 宏友会

グループホームほなみ

[問合せ] (0234) 91-7123

ほなみ20年の歩み

平成12年4月グループホームほなみが誕生しました。

全てが手探りの日々でしたが、毎日、今日は何をして楽しもうかな？どんな良い発見があるかな？など考えながら利用者も職員も生き生きと生活をしていたように思います。少しずつ成長し、これからも新しい認知症ケアを発信してくれる事を期待しています。

平成12年～平成17年 森屋恵



平成18年から地域密着型サービスとなりました。

利用者と地域でできる役割を話し合い小学生の見守り隊と雑巾のプレゼント、保育園の掃除ボランティアと卒園児に手づくりのお守りプレゼントをはじめました。今日まで継続することです子供たちや近隣の方々顔見知りの関係が築かれ、グループホームほなみで暮らしながら地域で生活が継続できるよう支援することができていると思われまます。

平成18年～平成24年 佐藤成子

保育園

ボランティア



見守り隊

ほなみの支援

食事の準備や掃除など、利用者と一緒に行ってきました。笑ったり、困ったりする日常の生活を一緒に過ごせた時間は本当に大切なものでした。

利用者の出来ることを引き出しながら、家庭的な雰囲気の中で過ごす時間をこれからも大切にしたいです。

平成27年～平成29年 佐藤千津子

食事作り



晩酌

ほなみ開設20周年に際して、当時の管理者の方々に話を伺いました。

ご利用者の 思いと対応

認知症の方と関わる際は、ご本人の意思を尊重した関わりが大切です。

晴れた日は外に出て気分転換したい

認知症のナツさん(仮名)は、天気がいいので散歩に出かけよう1人で外に出ますが帰ってくる事はできず、危険が伴うので職員が見守る必要があります。

あまりに頻回に外に出ようとするナツさんを見て職員は、ナツさんが好む事や得意な事

を行いながら、屋内に留めようとはしますが、頻回に外に出ようとする行為は変わりありません。

認知症の方は、自分がしたい事を制限されるとその状況から逃れるため、落ち着きが無くなったり、興奮したりします。その行為が認知症の行動心理症状として捉えられる事があります。

対応として、「天気がいいので散歩をしたい」という気持ちに寄り添い、一緒に楽しく散歩をしたり、畑作業や草むしりなど屋外で行う活動時間を増やすことで、頻回に外に出る行為は少なくなりました。

(岸高之)

ひなたぼっこ



事業所の周りはお花でいっぱい



晴れた日は毎日外へ!



塩納豆作り



家族からの電話に笑顔



旬の孟宗竹を処理



花の苗植え

ほなみ写真館



お知らせ

★6月の行事について
★面会者様・ご用事のある方へ

新型コロナウイルス感染症対策として原則、面会や玄関に入る事を、ご遠慮いただいております。ご用事の際は、玄関扉にある呼び鈴を少し扉を開けて強く鳴らして下さい。職員が対応いたします。なお、ほなみの6月の行事も中止いたします。一時的な対応にご協力をお願い致します。

編集後記

いわゆる「コロナ禍」の影響で外出自粛は元よりご家族との面会が制限されて早2か月超。ご家族へ電話、手紙、ビデオレター等、日々の様子をお伝えしている。実際、電話での話しぶりや手紙の内容は、子を心配する母そのもの。「いくつになっても子は子」なのだろう。

(奥泉久美子)

ある日のほなみ

見た目も大事

以前料亭で働いた経験のあるAさん。食事を盛り付ける際はお皿の大きさに対する盛り付ける量や具材の比率など、見た目が美しく、且つ食べる方の食欲が増すように気配りとこだわりがあります。

(川崎節子)

